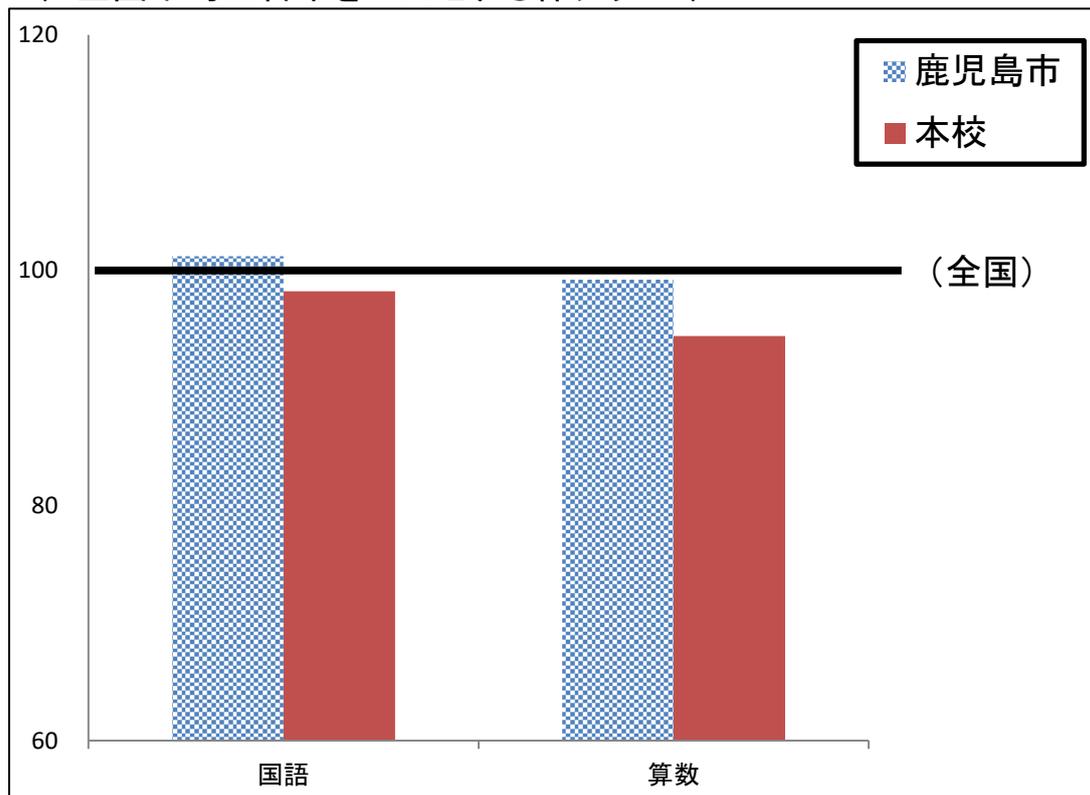


# 令和5年度全国学力・学習状況調査結果について 吉野東小学校

## 1 自校・市・全国の平均正答率の比較 〈 全国平均正答率を100とする棒グラフ 〉



## 2 自校の課題に対する改善策

### 〈国語〉

条件に合わせて書くことに課題が見られました。字数制限や文章に書かれている言葉を使うなどの条件のある文を書く際には、資料から得た情報を適切に関連付け、根拠となる記述を基にして自分の考えを書き、文章を組み立てることができるような指導を行っていきます。

また、漢字の書き取りでも誤答が見られました。対策としては、新出漢字を学習する際に反復練習と並行して、日常の文章を書く活動の中で漢字を使う習慣形成を図ることも必要だと思われます。日々の学習活動で書く活動を意図的に設定し、その中で漢字の正しい使い方を習得させていきます。

問題形式への対応として、記述式設問への対策が必要になってきました。記述式設問の正答率自体が余り高くないため、多くの子供が間違えている現状があります。こうした条件に即して自分の考えを表現する設問は、類似問題などへの継続的な取組が鍵となります。問題に関する処理の仕方を会得することで、子供たち自身の問題への対応スキルが伸びていくと考えていますので、積極的に「過去問題」「類似問題」等に取り組んでいきます。また、週末や長期休業中を中心に「自分の考えを表現(書く)する活動」にも取り組んでいきます。

### 〈算数〉

数量関係や図形の構成、割合の意味や計算、表し方について課題がありました。これらの内容については、確実に基本的な用語やその意味、実際の計算まで習熟を図るようにしていきます。生活に根差した問題にも数多く当たるようにしていき、身近な場面で学習したことが使われていることを子供に認識させていきます。家庭でも、学習した内容についての「生活化」について意識することで、深い内容理解につながっていくと思っておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

全体的な問題の傾向としては、国語と同様に思考力・表現力を問う問題が中心となっています。また、単に計算問題を解くのではなく、複雑な構造をもつ長文の問題を読み解く力も求められています。子供たちが問題を正しく処理するためには「何が問われているのか」「どのように答えるのか」といったことをまずは理解させる必要があると思っております。さらに授業の中で多様な問題解決の道筋を示し、それを子供同士で吟味するような活動も積極的に取り入れ、多様な考えにふれるよさを子供に感得させていきます。

<児童質問紙>

児童質問紙の結果から、授業においては、PCやタブレットなどのICT機器をよく利用したり、学習した内容の理解できたところや理解できなかったところを見直し、次の学習につなげたりする児童が多いことが分かりました。しかし、自分の考えを工夫して発表することに苦手意識をもっている児童が多いことも分かりました。今後は、できたことや分かったことをより多く積み上げさせ、自己有用感や自己肯定感を高めていきたいと思えます。

また、地域行事に参加している児童の割合も全国と比較すると、低い状況にあります。コロナ禍で、行事自体も減っていましたが、今夏は多くの行事が行われました。御家庭でも、地域行事への御参加をよろしく願います。□